

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宇和島市立城南中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	1	12	28
生徒数	116	139	159	2	416	

研究の概要

1. 研究主題

礼節を重んじ、主体的に活動する生徒の育成  
 —— 教科指導と生徒指導の一体化を通して ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

ア 全学年・全教科

全教職員が一丸となって研究に取り組むため。

イ 1・2・3年生・数学 (少人数習熟度別指導)

学校として、当該教科に関する研究実績があるため。

ウ 2・3年生・理科、3年生・英語 (少人数指導)

生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。

エ 全学年・総合的な学習の時間

これまでの研究成果と生徒に対する実態調査の結果から、実施学年・教科等の枠を広げ、研究に取り組むため。

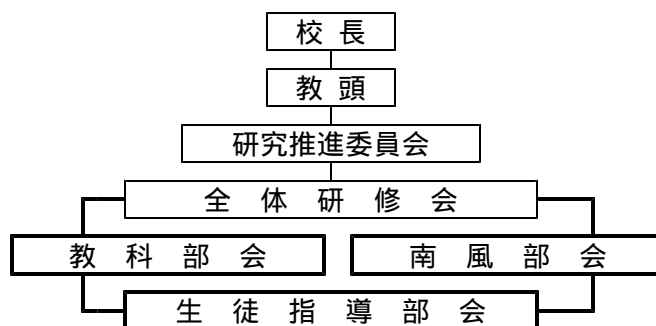
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>ア 実践研究主題              礼節を重んじ、主体的に活動する生徒の育成              —— 教科指導と生徒指導の一体化を通して ——</p> <p>イ 研究のねらい              学習指導の工夫改善を行い、教科指導における生徒指導の機能の充実を図ることにより、様々な場で礼節を重んじ、自ら考え主体的に活動する生徒を育成する。</p> <p>ウ 実践研究への取組              (ア) 全教科 (教科部会)              a 基本的生活習慣の育成              ・ 城南学習3原則の徹底              ・ 始業時における服装点検              b 学習指導の工夫改善              ・ 自己表現の場の設定(全教科)              ・ 少人数指導(数学科・理科・英語科)の取組              c 評価の工夫              ・ 評価方法の工夫改善              ・ 自己評価カードの活用              (イ) 総合的な学習の時間 (南風部会)              a 基礎学習の充実              ・ 補充を必要とするいくつかのスキル学習の設定              b 体験活動の充実              ・ 1年生「地域探求学習」              ・ 2年生「職場体験学習」「修学旅行タクシー研修」              ・ 3年生「卒業研究」              c 評価の工夫              ・ 「関心・意欲・態度」「情報活用能力」「人や物へのかかわり方」              (ウ) 生徒指導 (生徒指導部会)              a 基本的生活習慣の育成              ・ 正しい服装、あいさつ、時間を守る。</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>b 勤労意欲の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清掃活動の充実</li> <li>・ 日直・係活動の充実</li> </ul> </li> <li>c 生徒理解の深化と充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談の充実</li> <li>・ 教室環境や言語環境の整備・充実</li> </ul> </li> </ul>
--	---

平成 16 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 実践研究主題 礼節を重んじ、主体的に活動する生徒の育成 —— 教科指導と生徒指導の一体化を通して ——</li> <li>イ 研究のねらい 学習指導の工夫改善を行い、教科指導における生徒指導の機能の充実に を図ることにより、様々な場で礼節を重んじ主体的に活動する生徒を育 成する。</li> <li>ウ 実践研究への取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 全教科 (教科部会) <ul style="list-style-type: none"> <li>a 基本的生活習慣の育成</li> <li>b 学習指導の工夫改善</li> <li>c 評価の工夫</li> </ul> </li> <li>(イ) 総合的な学習の時間 (南風部会) <ul style="list-style-type: none"> <li>a 基礎学習の充実</li> <li>b 体験活動の充実</li> <li>c 評価の工夫</li> </ul> </li> <li>(ウ) 生徒指導 (生徒指導部会) <ul style="list-style-type: none"> <li>a 基本的生活習慣の育成</li> <li>b 勤労意欲の育成</li> <li>c 生徒理解の深化と充実</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 教科部会

ア 基本的生活習慣の育成

教科指導における基本的生活習慣の指導は有効であり、服装等に対する生徒の意識は明らかに変容し、授業に対する取組や集中力及び学習意欲も向上した。

イ 指導方法の工夫改善

(ア) 自己表現の場の設定

「自己表現の場」を全教科において設定したことにより、次のような成果が見られ、授業が活性化した。

質問場面の設定やゲームの導入 発表の場の設定と教師の発問の工夫  
発表場面を設定するための指導過程の工夫 手作り教具や教材の製作  
教室環境の整備・充実

(イ) 少人数指導

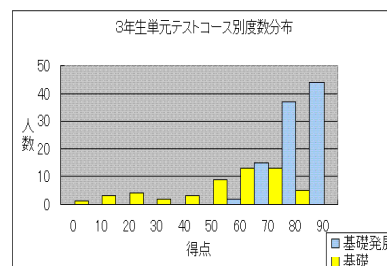
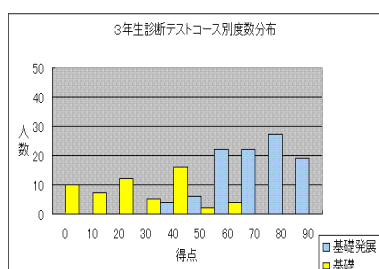
a 理科

実験方法や目的への意欲的な取組 実験・観察における一人一人の  
役割の定着 安全で確実性の高い実験の実施 生徒の学習状況の的  
確な把握(個に応じた指導の充実) 授業におけるコミュニケーション  
の深化

- b 英語科  
 実践的コミュニケーション場面の増加 基礎的事項の定着率の向上  
 英語に対する生徒の意識の変化 生徒の学習態度の改善  
 習熟の程度に応じた支援の充実

- c 数学科  
 基礎的事項の定着率の向上 生徒の学習意欲の向上 教材・  
 教員の開発 教科部会での研修活動の充実 数学教室の環境整備  
 生徒の意識調査を実施した結果、「授業が分かりやすくなった」と答えた生徒は60%から70%に増加した。また、「よく指名されるようになった」と答えた生徒は56%から77%に「発表の機会が増えた」と答えた生徒は51%から82%に、それぞれ増加した。

さらに、生徒の学力については、ある程度客観的な資料として、学力診断テストの本校の平均点と県平均とを比較した。その結果、現3年生の2年生時と3年生時の点数では、2年生時、県平均と比較すると15.2点上回っていたが、少人数指導を経験した今年1月では、県平均を20.4点上回る結果となった。2年生も同様に、6.8点から11.4点上回る結果となった。



(ウ) 評価の工夫

自己評価カードを全教科で活用した結果、次のような効果が指摘できる。

- 明らかに生徒の挙手・発表回数が増加した。(挙手回数の増加)
  - 授業が分かりやすく楽しくなった。(分かる授業)
  - 授業に意欲的に参加するようになった。(意欲的な学習態度)
  - 学習への理解が深まった。(学習の深化)
  - 学力の向上につながった。(学力の向上)
- また、これらのことは、生徒たちに次のような波及効果をもたらした。
- 発表をするための予習・復習にも影響を与えた。(家庭学習の充実)
  - 他教科への発表にも波及した。(他教科への波及)

(2) 南風部会

基礎学習を教科の学習内容の関連と系統性を考慮してスパイラルに位置づけることにより、基礎的な学び方の習得が図られ、生徒の活動意欲が向上した。また、表現力の育成を教科指導とも関連させ、指導と評価の一体化を目指して評価方法を工夫したことにより、表現力の中でも特に生徒の発表力の向上が見られた。さらに、これらの相乗作用として、「南風タイム」に積極的に参加する生徒が増加し、カリキュラムの定着が図られた。

(3) 生徒指導部会

まず、基本的生活習慣の育成では、教科指導や委員会活動と連動し組織的に指導を展開した結果、生徒の意識は大きく改善の方向に向かい、学習姿勢にまで転移した。次に、勤労意欲の育成では、清掃活動の実態調査を基に改善点を分析し、役割分担を明示したり全クラス統一した日直の指導を行ったりした結果、活動状況は少しずつではあるが、確実に改善の方向に向かっている。また、教室環境・言語環境の整備充実では、一人一人に一樣な環境として、居心地のよい教室環境を提供することに努めた結果、自クラスへの愛着や親しみをはぐくむことにつながった。

2. 今後の課題

- 基本的生活習慣や学習習慣の継続した指導に取り組み、その定着を図る。学習指導の工夫改善においては、「表現力育成」のための指導過程や指導方法の更なる充実に努める。生徒の意識調査を基に、少人数指導の効果的な指導法を探り、更に一体化した指導と評価の工夫改善に努める。(全教科)
- 基礎学習の更なる充実に図り、生徒の興味・関心を考慮した題材の発掘に努める。また、パソコンやデジタルカメラなどの設備や機器、図書館等の資料の充実や評価方法の工夫に努める。(総合的な学習の時間)
- 基本的生活習慣の育成のために共通理解と共通実践を図り、機能的な生徒指導体

制作りに努める。また、清掃活動や学級での係活動等への取組を充実させ、勤労意欲の育成へとつなげる。さらに、よりよい生徒理解のために教育相談を充実させ、生徒情報の共有化に努める。(生徒指導)

- (4) 「教科指導と生徒指導の一体化」という本校の研究の視点を全教職員が共通認識し、授業改善を推進するとともに、学力向上のために不可欠である一人一人の生徒を全人格的にとらえる生徒指導の在り方について、研修を深める。

学力把握のための学校としての取組

1. 5教科については、毎学期始めの学力診断テスト(4月、9月、3月)を実施し、各学年の基礎学力の把握に努めた。
2. 期末テストや単元テスト、小テストやドリル等を、学習状況の形成的評価や総括的評価の参考資料として用いた。
3. 各教科における関心・態度・意欲をとらえるために、学習状況を把握するためのアンケートを実施し、その結果を分析・考察し、指導の改善に活用した。
4. 教科部会や南風部会及び生徒指導部会の研究内容に関する調査結果は、生徒集会でプレゼンテーションし、結果を生徒に知らせることにより、変容を図った。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 本年度は、6月の管内教育研究会第12学校群の第1回事前研究会において、数学科の少人数習熟度別指導と理科の少人数指導を公開し、研究発表と研究協議を持った。
2. 11月の第2回事前研究会において、数学科の少人数指導の体制作りを中心に、研究発表と情報交換を行った。習熟の程度に応じた指導実施に至る配慮事項の共通理解を深めることができた。
3. 5月と11月と2月に行われた「学力向上フロンティア事業 地区別協議会」において、本校の取組を紹介し情報交換することにより、更に研究の方向性を確認することができた。
4. PTA総会や校区别懇談会、保護者懇談や学校通信、学年通信等を用いて、保護者や地域に本校の取組を紹介し、地域と一体となった取組となるよう努めた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】                     15年度からの新規校                     14年度からの継続校
- 【学校規模】                             3学級以下                                     4～6学級  
     7～9学級                                     10～12学級  
     13～15学級                                    16学級以上
- 【指導体制】                             少人数指導                                    T・Tによる指導  
     その他
- 【研究教科】                             国語     社会     数学    理科  
     外国語                                         音楽                                         美術                                         技術・家庭  
     保健体育                                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】                    有                     無